

年頭のあいさつ



八雲町議会議長

能登谷 正人

令和2年の新春を迎え、八雲町議会を代表し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆さまには清々しく新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素から町政の推進や議会運営に對しまして、温かいご支援と絶大なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年5月1日に平成に変わる新元号「令和」がスタートし、新たな時代の幕開けを迎えました。令和には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められております。

新たな時代においても、八雲町が夢と希望に満ちあふれ、温もりある地域社会の形成と産業の活性化に向け、さらに飛躍することを心から願うものであります。

日本が奉祝ムードに包まれた一方、昨年は自然災害が多く発生した一年でありました。熊本県熊本地方、胆振地方中東部、山形県沖を震源とする地震が次々と発生したほか、九州北部を中心とした豪

雨災害、台風15号による猛烈な風水害、台風19号による豪雨災害など大災害が頻発し、河川の氾濫、長期間の停電や断水、通信網の不通により各地に甚大な被害が発生しました。今もなお多くの方々が避難生活を余儀なくされております。

災害により犠牲になられた方のご冥福を心からお祈りするとともに、被災されました方々に対して深くお見舞い申し上げ、一日も早く通常の生活に戻ることができるようお祈りするところであります。

町においては、一次産業である水産業で、平成30年の夏頃に発生した原因不明のホタテ貝のへい死の影響により養殖水揚げ量が減少するなど、養殖漁業や地域経済に影響を及ぼすことが懸念されているところ。このような状況から、町では昨年、ホタテ貝生産回復に向けた支援策を打ち出し、議会において関係する予算補正を行ったところであります。へい死の原因につ

いて専門機関が分析を進めておりますが、早期の原因解明とホタテ養殖漁業の好転を切に願うところであります。

また、海洋深層水の特性を漁業資源に活用するため、北海道大学との共同研究で海藻「ダルス」の試験栽培などを行う水産試験研究施設の完成、北海道産サーモンの実現を目指す、八雲・熊石両地域で養殖に向けた実証実験を行うサーモン養殖試験事業、担い手対策として道南初の酪農研修牧場計画など、一次産業の活性化と八雲町の発展を強く期待しつつも、それらの状況をしっかりと見守っていきたいと思います。

役場庁舎等の整備に関しては、平成30年第3回定例会において特別委員会を設置し、議会報告会を開催して町民の皆さまのご意見をいただきながら、さまざまな視点で議論を深めてまいりました。そして、昨年3月には、新庁舎の目指すべき方向性をまとめた提言書を特別委員会委員長から町に提出したところであります。

昨年12月に町から庁舎等建設方針が示されたところであり、今後は具体的な議論に入っていくこととなります。提言書を基本とし、町民の皆さまの利便性に最重点を置き、特別委員会ですらに議論を深めてまいります。

私も議会議員は、昨年10月に議員の任期4年間の折り返し地点を通過いたしました。議会基本条例において目指す議会にどこまで近づくことができたのか。議会改革は永遠のテーマであり、時代の変化とともに議会も変化していく必要があると考えております。

町民から負託を受けた存在であるということを今一度見詰め直し、町民に軸足を置き、町民の声を議会での議論につなげるよう、また、しっかりと情報発信を行い注目される議会となるよう努力してまいります。

また、八雲町をはじめとする多くの地方自治体は、自主財源に乏しく、国の施策に左右される脆弱さがあります。町民の皆さまのために多くの行政サービスや事業を展開するためには、強固な財政基盤を築き、堅持していくことが必要であり、議会としましては必要と十分な意思疎通を図り、知恵を出し合いながら将来を展望した町政運営に邁進してまいります。

今後とも町民の皆さまのご支援とご指導をお願い申し上げますとともに、本年が穏やかな良い年になりますよう、皆さま方のご健勝とご繁栄を心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

〈広告〉



故人への想いを伝えるお手伝い

あおい セレモニー

24時間・365日対応

- ・家族葬(50名様までの密葬用ホールあります)
- ・寺院・町内の会館を利用し、ご希望にあわせて様々な宗教形式、無宗教形式の葬儀に対応
- ・専門スタッフに全てお任せください

〒049-3102

北海道二海郡八雲町東町247-1

電話 0137-64-2855・FAX 0137-66-5015

